

事業名:モンゴル国における子どものこころの診療を行うことの出来る医師の養成**実施主体:東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター****対象国:モンゴル国****対象医療技術等:**①医療技術:児童精神医学・医療診療技術／医療機器:田中ビネー知能検査の普及・人材養成 ③医療制度:子どものこころ専門医制度の構築

事業の背景

モンゴル国は人口約350万人であるが国土は広く、首都以外は人口がまばらで医療を受ける上での困難が認められている。子どものこころの診療を担う精神科および小児科は、モンゴル国では約120名および約220名の医師が存在しているが、そのうち子どものこころの診療を行っている医療機関は国立精神病院のみであり、担当医は3名である。WHOによると10-19歳の7人に1人が精神障害を経験するとされており、近年世界的にニーズが急増している神経発達症への診療体制の確立も喫緊の課題である。医師だけではなく心理職や特別支援に携わる専門職も少なく、十分な対応が行えていない。評価ツールや診療スキルなどのソフト面も未整備な点が多い。同国での実態調査は行われていないが診療体制の充実の必要性は非常に高いと考えられる。

本事業は、モンゴル国唯一の公的な医師養成機関であるモンゴル国立医科大学精神科および小児科より、子どものこころの診療の専門医養成を行うことへの協力を求められて、同国の正式な専門医研修として実施している。

事業の目的

モンゴル国における子どものこころの診療を行うことのできる医師の養成を目的とする。

そのために、同国で行う専門医研修と連動して、①児童精神医学の基礎研修②子どものこころの専門医を目指す医師への応用研修③専門医を養成するための指導医研修の各カリキュラムを開発し、モンゴル国の専門家が自ら各研修カリキュラムを実施出来るように指導することで、継続的な専門医の養成制度を構築する。加えて、子どものこころの支援に必要な田中ビネー知能検査の普及を図る。

モンゴル国における子どものこころの診療を行うことの出来る医師の養成について、発表をさせていただきます。まず、事業の背景について説明いたします。

モンゴル国は人口約350万人ですが国土は日本の約4倍と広く、人口の半分は首都ウランバートルに集中しています。そのため首都以外は人口がまばらで医療を受ける上での困難が認められています。

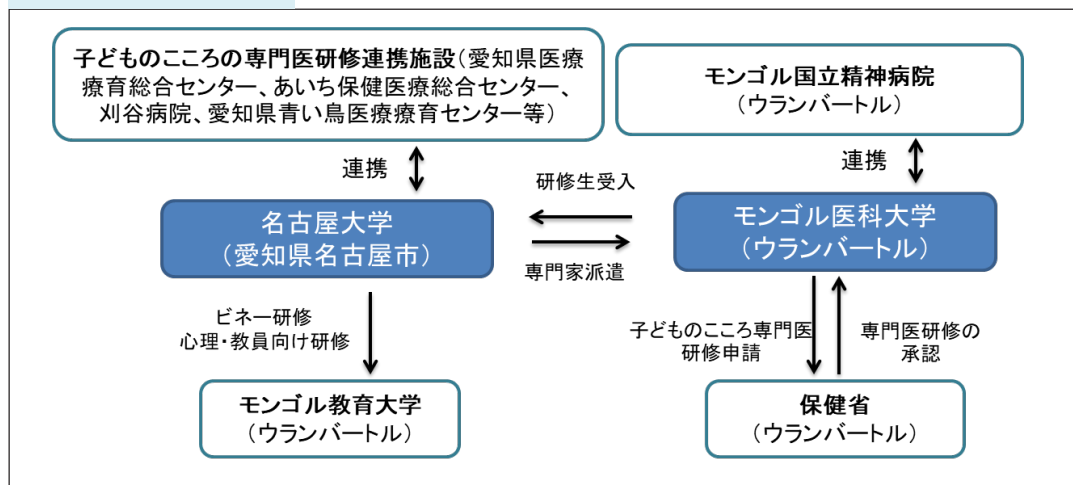
子どものこころの診療を担う精神科および小児科には、モンゴル国では精神科医約120名および小児科医約220名が存在していますが、そのうち子どものこころの診療を行っている医療機関は国立精神病院のみで、担当医は3名です。WHOによると10-19歳の7人に1人が精神障害を経験するとされており、近年世界的にニーズが急増している神経発達症への診療体制の確立も喫緊の課題ですが、対応できる専門医がほとんどいません。医師だけではなく心理職や特別支援に携わる専門職も少なく、十分な対応を行うことは困難です。子どものこころの評価を行うツールや診療スキルなどのソフト面も未整備な点が多い現状があります。同国での診療ニーズについての実態調査は行われていませんが、診療体制の充実の必要性は非常に高いと考えられます。

本事業は、モンゴル国唯一の公的な医師養成機関であるモンゴル国立医科大学精神科および小児科より、子どものこころの診療の専門医養成を行うことへの協力を求められて、同国の正式な専門医研修として実施しています。

次に、事業の目的です。本事業は、モンゴル国における子どものこころの診療を行うことのできる医師の養成を目的として行っています。同国で行う専門医研修と連動して、①児童精神医学の基礎研修、②子どものこころの専門医を目指す医師への応用研修、③専門医を養成するための指導医研修の各カリキュラムを開発し、モンゴル国の専門家が自ら各研修カリキュラムを実施出来るように指導することで、継続的な専門医の養成制度を構築します。加えて、子どものこころの支援に必要な評価ツールである田中ビネー知能検査の普及を図ります。

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター

実施体制



研修目標

対象者は、モンゴル国における子どものこころの診療を行うことを希望する精神科または小児科医師であり、モンゴル医科大学精神科・小児科が対象機関である。本研修は、モンゴル国において正式に承認された6カ月間の子どものこころの専門医研修の一環として行われる。研修内容は、子どものこころの診療に必要な診断技術、治療、多職種連携による多面的な支援方法などの児童精神医学・医療の必須事項である。専門医研修は、現地で行う児童精神医学に関する系統講義と、本邦で行う専門医療機関視察や症例検討等による実践応用研修から構成される。更に、研修を実施する指導医への研修を行う。加えて、医療との連携が不可欠となってくる心理職や特別支援関連教員も研修対象として、子どものこころに関する研修や子どものこころの支援に必要な田中ビネー知能検査モンゴル版に関する研修を行う。

実施体制は図の通りです。

日本側は、名古屋大学の心の発達支援研究実践センターおよび親と子どもの心療科が主体となって実施します。心の発達支援研究実践センターは心理職養成機関であり、同センター内の発達障害児支援プロジェクトに在籍する児童精神科医および臨床心理士が運営の中心となります。親と子どもの心療科は、国立大学としては日本で初めて設置された児童精神科専門施設で我が国における子どものこころ専門医研修における研修基幹施設のひとつとなっています。研修に際しては、名古屋大学関連の子どものこころの専門医研修連携施設（愛知県医療療育総合センター、あいち保健医療総合センター、刈谷病院、愛知県青い鳥医療療育センター等）の協力を得て実施します。

モンゴル側は、同国唯一の国立医師養成機関であるモンゴル医科大学の精神科が主体となって保健省の承認を受けて実施します。実施にあたり、同国の中核精神医療機関である国立精神病院が主たる研修施設として協力しています。

次に、研修目標について説明します。

対象者は、モンゴル国における子どものこころの診療を行うことを希望する精神科または小児科医師で、モンゴル医科大学精神科・小児科が対象機関となります。本研修は、モンゴル国において正式に承認された6カ月間の子どものこころの専門医研修の一環として行われます。

研修内容は、子どものこころの診療に必要な診断技術、治療、多職種連携による多面的な支援方法などの児童精神医学・医療の必須事項です。専門医への研修は、現地で行う児童精神医学に関する系統講義と、本邦で行う専門医療機関視察や症例検討等による実践応用研修から構成されます。更に、研修を実施する指導医への研修もあらかじめ実施します。加えて、医療との連携が不可欠となってくる心理職や特別支援関連教員も研修対象として、子どものこころに関する研修や子どものこころの支援に必要な田中ビネー知能検査モンゴル版に関する研修を行います。

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター

1年間の事業内容

令和6年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
指導者研修(本邦)			—	—	講師:日本人専門家6名 研修員:①モンゴル国の心理・教育指導者6名 ②モンゴル国の指導医6名 日程:①7月2日～9日 ②7月23日～29日 場所:名古屋大学 等					
経験者研修(現地)				—	講師:日本人専門家4名 研修員:医師・心理士、教員等51名 日程:8月28日～9月6日 場所:モンゴル医科大学、モンゴル教育大学					
基礎研修(現地)		講師:日本人専門家6名 研修員:医師・心理士、教員等58名 日程:10月6-14日 場所:モンゴル医科大学、モンゴル教育大学			—					
専門医研修(本邦)				講師:日本人専門家12名 研修員:子どものこころ専門医研修医10名 日程:12月8-21日 場所:名古屋大学 等			—			
ビネー検査研修(オンライン)				講師:日本人専門家3名、モンゴル人専門家4名 研修員:30名(医師10名、心理士10名、教員10名) 日程:1月7-10日、29日 対象機関:モンゴル教育大学(オンライン)				—		

1年間の事業内容は図の通りです。

7月に専門医研修全体を運営・指導する立場にあたるモンゴル医科大学精神科・小児科の教員および指導医と、田中ビネー知能検査開発・研修担当者であるモンゴル教育大学教員に対して、本邦での研修を行いました。

8月には、現地研修で、昨年度専門医研修を修了した専門医に向けた研修と、田中ビネー知能検査検査者養成研修修了者向け応用研修を行いました。

10月から3月にかけて、モンゴル医科大学が主体となった子どものこころ専門医研修が行われました。この研修には、子どものこころの専門医を目指す、モンゴル国の精神科専門医9名、小児科専門医1名が参加しました。

日本側専門家は、同専門医研修に対して、基礎研修・応用実践研修からなる2段階での研修を行いました。

10月には、現地を訪問して、基礎研修として児童精神医学・医療に関する系統講義を行いました。系統講義では、ICD-11に基づいて児童精神医学領域の疾患・障害に関する疾患概念、診断、治療等について包括的な講義を行いました。本講義は、専門医研修専攻医10名の他にも参加を希望する医師の参加も認めて、広く子どものこころの診療に関する知見が広がることを目指しました。また、子どものこころの支援を行う心理、教育専門家向け研修も行いました。

1月には、専門医研修専攻医10名に対して本邦にて応用実践研修を行いました。本邦研修では、児童精神医学・医療、教育、子どもの支援関連施設の視察、診断・他職種連携などに関する応用講義、実際の症例を日本の医師も加わって検討する症例検討などを行いました。

加えて、子どものこころの診療のために必要不可欠な知能検査としてモンゴル版が開発された田中ビネー知能検査の普及のために、検査者養成研修会をオンラインで実施しました。30名の参加者があり、全員が研修課程を修了しました。

研修の流れ

7月 指導者研修(本邦)



8月 経験者研修(現地)



10月 基礎研修(現地)



12月 専門医研修(本邦)

1月
ビネー検査研修
(オンライン)

研修の流れは図の通りです。

7月に指導医研修を行い、10月からの専門医研修のスムーズな実施のための準備を行いました。

8月には、前年に専門医研修を修了した専門医10名に対する応用研修と情報交換を行いました。情報交換の中で、研修を修了した専門医が実際の臨床の中で子どものこころの臨床を精力的に行っていることが確認できました。

今年度の専門医研修は、現地での基礎研修と本邦での専門医（応用実践）研修を実施しました。

田中ビネー知能検査検査者養成研修は、1月にオンラインで実施しました。専門医研修を受講している医師10名も検査者養成研修を修了しました。

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	①指導者研修(本邦) ・応用研修カリキュラムの内容を理解し、研修を実施することが可能となる。 ②経験者研修(現地) ③基礎研修(現地) ④専門医研修(本邦) ・プレテスト・ポストテストで理解度向上(①②15% ③10% ④30%)。 ⑤ビネー検査研修(オンライン) ・田中ビネー知能検査の技術習得。	①指導者研修参加者が、検査経験者に対する応用研修または現地専門家への伝達研修3回以上を行う。 ②経験者研修参加者が子どものこころの診療または支援を行う。 ③基礎研修参加者が、学んだ技術を用いて、1ケース以上の子どもの支援を行う。 ④専門医研修参加者が、3ケース以上の子どものこころの診療を実施。 ⑤ビネー研修参加者が、1ケース以上の子どもの支援を行う。	①本研修の技術を用いた、子どものこころ専門医研修カリキュラムが、モンゴル国で専門医研修として公的に承認される。 ②本研修の成果として、モンゴル国の子どものこころの診療を行うことの出来る医療機関が増加する。 ③本事業に関連して、田中ビネー知能検査モンゴル版の新規採用・購入を促進し、一層の展開を行う。
実施後の結果	①指導者研修:教育・心理指導者6名は研修内容を十分に理解して応用研修を実施。指導医は6名中3名で、理解度の向上が見られた。 ②経験者研修:50名が参加。8名中7名で理解度の向上が見られた。 ③基礎研修:58名が参加。36名中22名で理解度の向上が見られた。 ④専門医研修:10名が参加。8名中6名で理解度の向上が見られた。 ⑤ビネー研修(オンライン) 30名が参加。全員が研修終了し、技術を習得した。	①指導者研修参加者が応用研修および伝達研修を達成した。 ②経験者研修参加者が542名の子どものこころの診療を行った。 ③基礎研修参加者のうち、確認できた範囲で計704名の子どもの支援を行った。 ④専門医研修参加者10名が、日本で学んだ技術を生かして、10ケース以上(平均70ケース)の子どものこころの診療を実施した。 ⑤ビネー研修参加者が、1ケース以上の子どもの支援を行った。	①本研修の技術を用いた、子どものこころ専門医研修が、モンゴル国の専門医研修として公的に承認されている。 ②本研修により、2年間で20名の子どものこころ専門医が養成されたことで、診療機能が大きく向上した。20名の新規専門医により計1,246名の子どものこころの診療が行われた。 ③田中ビネー知能検査は今年度20セットの新規購入が得られた。今後、検査者養成に加えて、採用医療機関の増加、検査経験者への現任者教育にも注力していく。

今年度の成果指標とその結果を示します。

アウトプット指標では、実施前には以下のような指標を設定しました。

- ① 指導者研修(本邦): 応用研修カリキュラムの内容を理解し、研修を実施することが可能となる。
- ② 経験者研修(現地)
- ③ 基礎研修(現地)
- ④ 専門医研修(本邦)

上記について、プレテスト・ポストテストで理解度が向上する(①② 15%、③ 10%、④ 30%)。

- ⑤ ビネー検査研修(オンライン): 田中ビネー知能検査の技術習得。

実施後の結果は以下の通りでした。

- ① 指導者研修: 教育・心理指導者6名は研修内容を十分に理解して応用研修を実施しました。指導医は6名中3名で、理解度の向上が見られました。
- ② 経験者研修: 50名が参加しました。8名中7名で理解度の向上が見られました。
- ③ 基礎研修: 58名が参加しました。36名中22名で理解度の向上が見られました。
- ④ 専門医研修: 10名が参加しました。8名中6名で理解度の向上が見られました。
- ⑤ ビネー研修(オンライン): 30名が参加しました。全員が研修終了し、技術を習得しました。

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター

アウトカム指標では、実施前には以下のような指標を設定しました。

- ① 指導者研修参加者が、検査経験者に対する応用研修または現地専門家への伝達研修 3 回以上を行う。
- ② 経験者研修参加者が、子どものこころの診療または支援を行う。
- ③ 基礎研修参加者が、学んだ技術を用いて、1 ケース以上の子どもの支援を行う。
- ④ 専門医研修参加者が、3 ケース以上の子どものこころの診療を実施。
- ⑤ ビネー研修参加者が、1 ケース以上の子どもの支援を行う。

実施後の結果は以下の通りです。

- ① 指導者研修参加者が応用研修および伝達研修を達成しました。
- ② 経験者研修参加者が 542 名の子どものこころの診療を行いました。
- ③ 基礎研修参加者のうち、確認できた範囲で計 704 名の子どもの支援を行いました。
- ④ 専門医研修参加者 10 名が、日本で学んだ技術を生かして、10 ケース以上（平均 70 ケース）の子どものこころの診療を実施しました。
- ⑤ ビネー研修参加者が、1 ケース以上の子どもの支援を行いました。

インパクト指標では、実施前には以下のような指標を設定しました。

- ① 本研修の技術を用いた、子どものこころ専門医研修カリキュラムが、モンゴル国で専門医研修として公的に承認される。
- ② 本研修の成果として、モンゴル国のこころの診療を行うことの出来る医療機関が増加する。
- ③ 本事業に関連して、田中ビネー知能検査モンゴル版の新規採用・購入を促進し、一層の展開を行う。

実施後の結果は以下の通りです。

- ① 本研修の技術を用いた、子どものこころ専門医研修が、モンゴル国の専門医研修として公的に承認されて実施しています。
- ② 本研修により、2 年間で 20 名のこころ専門医が養成されたことで、診療機能が大きく向上しました。20 名の新規専門医により計 1,246 名のこころの診療が行われました。
- ③ 田中ビネー知能検査は今年度 20 セットの新規購入が得られました。今後、検査者養成に加えて、採用医療機関の増加、検査経験者への現任者教育にも注力していきます。

今年度の対象国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数
本事業で実施した子どものこころ専門医研修は、モンゴル国の正式な専門医研修として承認されている。
- 事業で紹介・導入し、対象国の調達につながった医療機器の数
田中ビネー知能検査モンゴル版は、今年度医療機関や教育機関に20台購入された。

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者（延べ数）
 - ・ 日本で研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数： 22名
 - ・ 対象国で研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数： 109名
 - ・ 研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数： 131名
 - ・ 過去に研修を受けて講師・専門家となった現地の講師・専門家の合計数：12名
 - ・ 本研修により、2年間で20名の子どものこころ専門医が養成され、新規専門医20名により計1,246名の子どものこころの診療が行われた。

今年度の対象国への事業インパクトを示します。

まず、医療技術・機器の国際展開における事業インパクトとしては、以下のような点が挙げられます。

- ① 本事業で実施した子どものこころ専門医研修は、モンゴル国の正式な専門医研修として承認されて実施しました。
- ② 田中ビネー知能検査モンゴル版は、今年度医療機関や教育機関に20台購入されました。

また、健康向上における事業インパクトとしては、以下のような実績となっています。

事業で育成した保健医療従事者（延べ数）は、日本で研修を受けた研修員が22名、対象国で研修を受けた研修員が109名で、オンラインも含めて研修を受けた研修員の合計数は131名でした。

本研修により、2年間で20名の子どものこころ専門医が養成され、新規専門医20名により計1,246名の子どものこころの診療が行われました。

これまでの成果

- ① 子どものこころ専門医研修カリキュラムがモンゴル国で専門医研修として公的に承認された。
- ② 本研修の技術によって今年度も10名の児童精神科医が養成され、モンゴル国の子どものこころの診療機能が向上した。同国内で必要最低限の子どものこころ専門医は30名程度とされており、本事業が完了する際には、診療体制が整備され、その後の自立的継続的な専門医養成システムの構築が可能となると期待される。
- ③ 田中ビネー知能検査モンゴル版のモンゴル国内での普及に向けて、本事業において検査者養成研修を行い、30名の検査者が養成された。関連して、検査用具20セットが購入された。

今後の課題

- ① 子どものこころ専門医制度が定着し、モンゴル国内で自立的に行えるようになることが必要である。そのためには、研修カリキュラムが適正化され、テキスト等指導教材の開発が求められる。また、研修を行う指導医の養成のためのカリキュラムも必要となる。
- ② 田中ビネー知能検査モンゴル版の更なる普及のためには、検査を行うことの出来る検査者養成を進めていくとともに、実際に検査を行っている専門家向けの応用研修や、医療・教育・心理専門機関の新規採用を増やすための更なる普及活動が必要である。

これまでの成果については以下の点が挙げられます。

- ① 子どものこころ専門医研修カリキュラムがモンゴル国で専門医研修として公的に承認され、実施されています。このことは、今後モンゴル国で子どものこころの診療に関する専門性の確立や診療体制の整備を行う上で非常に大きな意味があると考えられます。
- ② 本研修の技術によって2年間で20名の児童精神科医が養成されました。現在子どものこころの診療を行っている医師は3名のみであることからすると、これ自体がモンゴル国の子どものこころの診療機能向上に寄与したと考えられます。同国内で必要最低限の子どものこころ専門医は30名程度とされており、本事業が完了する際には、最低限の診療体制が整備され、その後の自立的継続的な専門医養成システムの構築が可能となると考えられます。
- ③ 田中ビネー知能検査モンゴル版の普及に向けて、本事業において検査者養成研修を行い、30名の検査者が養成されました。関連して、検査用具20セットが購入されました。

今後の課題は以下の点が挙げられます。

- ① 子どものこころ専門医制度が定着し、モンゴル国内で自立的に行えるようになることが必要です。そのためには、研修カリキュラムが適正化され、テキスト等指導教材の開発が求められます。また、研修を行う指導医を養成するためのカリキュラムも必要となります。
- ② 田中ビネー知能検査モンゴル版の更なる普及のためには、検査を行うことの出来る検査者養成を進めていくとともに、実際に検査を行っている専門家向けの応用研修や、医療・教育・心理専門機関の新規採用を増やすための更なる普及活動が必要と考えられます。

将来の事業計画

● モンゴル国における子どものこころ専門医制度の確立

- ① 専門医研修の継続的な実施により、30名以上の専門医の育成(⇒研修施設の指導医)
 - ② 研修教材の開発
 - ③ 指導医養成カリキュラムの開発
 - ④ 子どものこころに関する学会の設立
- ⇒ 自立的、恒久的な専門医制度の確立

● 田中ビネー知能検査モンゴル版の普及

- ・ 検査を実施することの出来る専門家養成
- ・ 普及のための講演会開催、学会等での広報
- ・ 現地の医療・教育・心理専門施設での採用
- ・ 検査を利用している専門家への生涯教育

最後に、将来の事業計画について示します。

モンゴル国における子どものこころ専門医制度の確立を進めていきたいと考えています。制度が確立するためには、コンテンツや運営システムを開発するとともに、モンゴル国内で自立的に継続できるための人材や研修施設といった研修リソースの整備も必要不可欠と考えられます。こうした点を踏まえて、以下のような計画を考えています。

- ① 専門医研修の継続的な実施により、30名以上の専門医を育成していきます。この最初の専門医が診療を行う医療機関が、その後の専門医研修における研修施設として機能することとなります。
- ② 研修教材（テキスト、ビデオ教材）を開発します。
- ③ 研修を恒久的に行っていくためには、指導することの出来る指導医が必要です。このため、指導医養成カリキュラムを開発します。
- ④ モンゴル国内で、専門医や指導医が情報交換や技量向上を相互に行う機会を確保し、モンゴル国の子どものこころの問題および専門医養成について主体的に研究、改善することが出来るように、子どものこころに関する学会を設立することを支援します。

これらの活動を通して、自立的恒久的な専門医養成システムが確立すると考えられます。

田中ビネー知能検査モンゴル版の普及に関しては、以下の事業を行う予定です。

これまで、150名以上の検査者を養成してきましたが、今後子どものこころの問題に関する診療が充実してくるに伴って、評価ニーズがますます増加すると考えられるため、更に検査を実施することの出来る専門家を積極的に養成していきます。また、検査を普及するための講演会を開催するとともに、精神神経学会等のモンゴル国内専門医学会等での広報の機会を持てるよう働きかけていきます。そうした活動によって、現地の医療・教育・心理専門施設での更なる採用を増やしていきます。

更に、検査が子どものこころの問題の支援に適切に用いられるように、実際に検査を行っている専門家の技量向上に向けた研修を行っていきます。

これらの活動を行うことによって、田中ビネー知能検査モンゴル版が、モンゴル国における子どものこころの支援に不可欠な評価ツールとして全国的に汎用されるよう、展開していきたいと考えています。